

## ラムサール条約 児童が意義学ぶ

出水・切通小

出水市の切通小学校で20日、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約や、同市が国内初認証を受けた「湿地自治体」について学ぶ出前授業があった。写真。クレインパークいずみの原口優子学芸員を講師に迎え、児童らが理解を深めた。

原口さんは「湿地は浅い



水と土がある場所で、水鳥の餌になる生き物が多い。人工の水田も含まれる」と

述べ、条約に登録された「出水ツルの越冬地」の大半は水田と強調した。「条約は湿地を守るだけでなく、人間にもプラスになる賢い利用を求めている」と解説。自治体認証に関して「産物のブランド化や環境学習を市全体で取り組めるようになる」と利点を挙げた。

5年の蘭畑そらさんは「水鳥にとって湿地は大切で、これからも守らねばならないと思った」と話した。

(山本輝志)